

平成 22 年度 事業報告書

学校法人 甲南女子学園

I. 学校法人の概要

学校法人甲南女子学園(以下「本学園」という。)は、平成 22 年 (2010 年) に学園創立 90 周年を迎えました。大正 9 年 (1920 年) に甲南高等女学校創立以来、「まことの人間をつくる」を建学の精神とし、「清く 正しく 優しく 強く」を校訓として掲げると共に、「全人教育、個性尊重、自学創造」の教育方針を持ち、阪神間を代表する女子教育機関として、豊かな人間性を育みつつ、個性に応じた才能を伸ばす教育を実践してきました。

本学園は、甲南女子大学大学院(人文科学総合研究科)、甲南女子大学(文学部・人間科学部・看護リハビリテーション学部)、甲南女子高等学校、甲南女子中学校で構成され、同窓生数は 50,000 名を超えています。甲南女子大学では、21 世紀型の女子大学として、グローバルな視野で、柔軟な思考と行動力を身に付けた女性を育成し、男女共同参画社会での豊かな社会づくりに貢献できる女性の育成を目指しています。また、甲南女子高等学校・同中学校では、知・徳・体のバランスの取れた人格の育成を基盤として、少人数教育による一層の教育成果の実現を目指しています。

今後、学校法人甲南学園、学校法人甲南学園甲南小学校・同幼稚園、財団法人甲南病院及び本学園の甲南 4 法人の絆を更に深め、4 法人共通の創立精神のもと、それぞれの特色を強化し、更に英知を結集して、教育・医療における社会貢献を果たし、阪神間における甲南 4 法人の存在感をより一層高めていきたいと考えています。

1. 学生・生徒数等の推移 (5月1日現在) (単位:名)

区 分	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度
○学生在籍者数				
大 学 院	58	57	52	45
文 学 部	1,452	1,449	1,524	1,607
人間科学部	1,515	1,583	1,674	1,785
看護リハビリテーション学部	142	285	468	607
計	3,167	3,374	3,718	4,044
○生徒在籍者数				
高 等 学 校	467	463	475	484
中 学 校	508	512	516	523
計	975	975	991	1,007
○教職員数				
専任教職員	243	273	289	299
非常勤教職員	302	269	270	308
計	545	542	559	607

2. 入学定員・収容定員・入学者数・在籍者数の概要（平成22年5月1日現在）

学 科・専 攻	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
文 学 部				
日 本 語 日 本 文 化 学 科	80	110	320	407
英 語 英 米 文 学 科	120	133	480	530
多文化コミュニケーション学科	70	93	280	358
メ デ ィ ア 表 現 学 科	60	91	240	312
文学部 計	330	427	1,320	1,607
人 間 科 学 部				
心 理 学 科	90	109	360	423
人 間 教 育 学 科	—	—	—	2
総 合 子 ど も 学 科	120	148	480	549
文 化 社 会 学 科	80	100	320	398
生 活 環 境 学 科	80	116	320	413
人間科学部 計	370	473	1,480	1,785
看 護 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 学 部				
看 護 学 科	85	86	355	358
理 学 療 法 学 科	60	62	240	249
看護リハビリテーション学部 計	145	148	595	607
甲南女子大学 合計	845	1,048	3,395	3,999
大 学 院 人 文 科 学 総 合 研 究 科 博 士 前 期 課 程				
言 語 ・ 文 学 専 攻	9	2	18	10
心 理 ・ 教 育 学 専 攻	13	6	26	20
社 会 ・ 文 化 環 境 学 専 攻	9	3	18	5
博士前期課程 計	31	11	62	35
大 学 院 人 文 科 学 総 合 研 究 科 博 士 後 期 課 程				
言 語 ・ 文 学 専 攻	3	0	9	1
心 理 ・ 教 育 学 専 攻	3	0	9	6
社 会 ・ 文 化 環 境 学 専 攻	3	1	9	3
博士後期課程 計	9	1	27	10
大学院 合計	40	12	89	45
甲 南 女 子 中 学 校 ・ 高 等 学 校				
甲 南 女 子 中 学 校	180	182	540	523
甲 南 女 子 高 等 学 校	180	166	540	484
甲南女子中学校・高等学校 計	360	348	1,080	1,007

Ⅱ．事業の概要

1．事業の概況

本学園を取り巻く環境は、少子化の進行、学校間競争の激化、経済不況等、ますます厳しさを増しています。かかる状況下で本学園は、90年にわたる甲南女子教育の伝統と実績をもとに、常に中学校、高等学校、大学及び大学院における女子教育の新しいあり方を追求するとともに、中長期の視点から健全財政の実現と経営基盤の更なる安定・強化に取り組んでいます。具体的には、平成21年度から23年度にわたる「学園中期計画」を策定し、これを学園全体で共有することによってP D C A（Plan Do Check Action）サイクルを回していくことにしました。

平成22年度は創立90周年に当たり、「ブランド戦略本部」を基軸に、U I（University Identity）、S I（School Identity）、90周年記念行事企画、ブランド広報活動及び90周年記念式典を執り行いました。同時に教育研究環境の整備を目的とした「90周年記念事業募金」活動を展開し、目標の1億円を達成しました。中高新校舎建設については、12月に起工式を執り行い、平成23年度内完成に向け、順調に工事が進んでいます。大学キャンパスについても建物に関する10年構想をもとに、将来の学習環境整備に着手しております。

甲南女子大学では、総合子ども学科の一層の充実のために「社会福祉法人甲南愛育会」を設立し、「甲南保育園」を神戸市東灘区森南町に開園し、3年目を迎えようとしています。学生寮としては、「Konan Clover House」（一人部屋、定員155名）を神戸市東灘区甲南町に設置しています。

組織面では図書館とメディアセンターを統合すると共に、メディアライブラリーを図書館内に移設し、利便性の向上を図っております。また学長諮問に対する「中長期構想検討グループ答申案」をもとに、課題の整理と解決の方向付けを検討し、第2次答申を提出しました。これを踏まえて、次年度の具体的な計画を作成しています。

甲南女子中学高等学校では、大学と同様に「甲南女子中学高等学校の教育理念」を再確認し、建学の理念を尊重しつつ学校の使命及び生徒がめざす姿を明確化しました。スペシャル・アドバンストコース（Sアドコース）開設3年目にあたり、募集段階から1クラス増設して2クラスに、スタンダードコースを1クラス減らして3クラスに変更し、受験生の要望の変化に応えるとともに、一層の充実を図りました。

2．大 学

(1)教育体制

看護リハビリテーション学部が平成22年度に完成年度を迎え、看護学科においては、看護師国家試験受験者全員が合格しました。理学療法学科においては、全国平均を上回りましたが80%の合格率にとどまりました。大学院においては、平成24年度開設に向けて「看護学研究科（仮称）」として申請すべくその準備に着手しました。大学院人文科学総合研究科言語・文学専攻内フランス語フランス文学コースについては、大学においてフランス語フランス文学科を廃止し

たため、コースの募集を取りやめ、かつ在籍者がいなくなったことから当該コースを閉じることとなりました。

大学院(専攻)・学部(学科) 一覧 (平成 22 年度)

大学院	人文科学総合研究科 (博士前期課程) 言語・文学専攻 心理・教育学専攻 社会・文化環境学専攻
	人文科学総合研究科 (博士後期課程) 言語・文学専攻 心理・教育学専攻 社会・文化環境学専攻
学 部	文 学 部 日本語日本文学科(4年生) 日本語日本文化学科(1・2・3年生) 英語英米文学科 多文化共生学科(4年生) 多文化コミュニケーション学科 (1・2・3年生) メディア表現学科
	人間科学部 心理学科 人間教育学科(募集停止) 総合子ども学科 行動社会学科(4年生) 文化社会学科(1・2・3年生) 人間環境学科(4年生) 生活環境学科(1・2・3年生)
	看護リハビリテーション学部 看護学科 理学療法学科

(2)教育活動

各学部学科における専攻科目は、教育効果を高めるために例年、見直しを行い、一部科目を入れ替えています。平成 22 年度は、平成 23 年度に向けて学科教育の充実を図るため、多文化コミュニケーション学科においては、科目体系の再構築を行い、卒業単位に占める学科専攻科目の単位数を増やしました。同様に文化社会学科、生活環境学科においても科目を追加し、卒業単位に占める学科専攻科目の単位数を増やしました。看護学科においては、従来 of 看護師及び保健師統合カリキュラムをそれぞれに分離したカリキュラムに変更しました。理学療法学科では、本学の実情に合わせた科目内容の見直し、科目の新設を行いました。

対外協力センター（社会貢献室、国際交流室）の活動が 2 年目に入り、前年度に引き続き社会貢献活動と国際交流活動の活性化を図りました。

甲南大学との大学間連携講座に関しては、前年度に引き続き本学から、延べ60名弱の学生が甲南大学の授業を受講しています。また、甲南大学からも前年度に引き続き若干名の学生が本学科目を受講し、単位互換を行っています。

(3)外国語教育

外国語教育については、平成21年度に枠組みを大幅に見直しました。それを受けて平成22年度は、学生の需要に合わせて一部の語学科目を整理し、平成23年度入学者向けの初修外国語としてフランス語、ドイツ語、スペイン語、インドネシア語、韓国語、中国語を開講しています。

(4)国際交流

語学力と国際感覚を身につけるために、交換留学を含む各種留学（15プログラム）、語学文化研修（12プログラム）、専門的な海外研修（5プログラム）、計32プログラムを運営していますが、平成22年度は、政情不安により中止したプログラム（タイ）があった以外は予定どおり実施しました。

交換留学先：(中) 天津外国語大学、(韓) 淑明女子大学校、(仏) パリ第7大学
認定留学先：(米) 西イリノイ大学 WESL、(加) リジャイナ大学 ESL、(仏) ナント大学 IRFFLE、(韓) 淑明女子大学校国際言語教育院、(新) カンタベリー大学 CCEL、(英) ヨーク大学 CELT、(中) 天津外国語大学国際交流学院
語学文化研修先：(豪) シドニー大学 The Women's College、(加) リジャイナ大学 ESL、(中) 復旦大学国際文化交流学院、(韓) 淑明女子大学校国際言語教育院、(英) ヨーク大学 CELT、(仏) Paris Langue、(西) バジヤドリッド大学 Centro De Idiomas、(泰) プラティープ財団「生き直しの学校」、(内蒙古) バイアールイエ沙丘
海外研修：(韓) 海外日本語教育実習、(新) 総合子ども学科海外研修、(豪・米・比) 看護・理学療法海外研修

また、学内の国際化をめざし、受入れ留学生の支援活動、淑明女子大学校訪日文化研修団の受入れなどの交流活動を実施しました。更に、現地の政情不安に対処するため、「危機管理マニュアル」を活用しました。旅費や保険も一括扱いで経費の削減を図るなど、一層効率的な運営をめざしました。

(5)情報教育

情報化社会に対応し、初級から上級者向けの科目を全学共通科目に設けています。また、学習環境充実のためソフトの入れ替えを行い、より実践的な力が身につく環境を整えました。さらに、研究での利用が多い統計ソフトを多数購入し、学生及び教職員がより研究しやすい環境をととのえました。

その他、前年度に引き続き学生支援情報システムの強化を行い、各種通知等の学生への伝達方法を改善し、また各種証明書の自動発行機を導入したことにより、学生への利便性を高めました。

(6)学生生活

社会化学習への支援としてマナー教育（社会化教育プログラム）を展開し、様々な活動を行っています。学習指導と生活指導を統合する学習支援として、

共通科目「大学探検」を開講科目に設定し、1年生を対象にマナー講座を提供すると共に、禁煙応援講座、薬物乱用防止・感染予防講座及び人権講座を実施しました。

平成20年度に導入されたアドバイザー制度の定着により、学生の健康や適応に関する情報を共有し、他の部局とも連携しつつ、家庭の協力を求めるなど支援にあたっています。学生生活の質（QOSL）調査を学生の精神的健康度の把握と学生支援の充実、ならびに指導体制の方向を探るために実施しています。

10月には大学と学生の家庭を結ぶ教育懇談会を開催しました。

また、優秀な学生を表彰（大学・優秀学生賞、同窓会・清友会賞、教育後援会・学習奨励賞）しています。

(7)課外活動

弓道部 第39回大学対抗懇親射会 準優勝

ラケットボール部 全日本学生ダブルスソフオモアズカップ 優勝

ラクロス部 サマーステージ（夏季新人戦）ブロック優勝

チアリーディング部 第19回関西チアリーディング選手権大会兼全日本選手権地区予選 DIVISION1 大学の部 3位

第22回全日本学生チアリーディング選手権大会 10位入賞

馬術（日本語日本文化学科3年 渡邊瀬奈）

第34回全日本障害馬術大会2010 ヤングライダー選手権 3位

(8)就職活動

平成22年度の就職状況は、依然として厳しい環境にあり、多くの学生が長期間にわたる就職活動を余儀なくされました。平成22年度に特に重点を置いて実施した就職支援事業は、①就職活動で苦戦を強いられている4年生に対し、学内で企業選考会やセミナーなどの開催、②これから就職活動を始める3年生のために就職支援プログラムのさらなる充実、③1・2年生に対する就職ガイダンス等の実施、以上の3点です。また、新規事業として、将来社会で活躍を目指す強い学生を育成することを目的とした「ビジネスウーマン塾」（3年生対象）を平成23年度からスタートさせるために、4月会塾を目指し、1月には説明会と学生募集を行いました。

資格サポートセンターでは、例年以上に多くの学生が資格取得にチャレンジしています。また、公務員試験対策や教員採用試験対策を実施することで公務を目指す学生も徐々に増え、社会での活躍が期待できます。

(9)大学開放

4月に第45回シェイクスピア祭を芦屋市民会館（ルナ・ホール）にて開催
また、子ども学講演会も年数回開催しました。

平成22年度は、学園創立90周年の年にあたり、大学祭を学園行事と合わせて、第5土曜日に実施しました。また、例年同様、同窓生を招いて、第29回ホームcomingデーを同時に実施しました。

さらに大学が有する人的・物的・知的資源を広く学外へ提供する公開講座・研修会等を実施しました。

公開講座 「異人たちのヨーロッパ」「日本語日本文化学科社会人講座」

研修会 「D-PEC」臨床実習指導者育成

地域交流 「甲南子育てひろば」
芸術文化 「芦屋交響楽団」芦原講堂開放
心理相談 「心理相談研究センター」

(10)学生募集

入試実施後の入試問題検証のため、第3者機関における事後検証を実施しました。結果、入試問題検証後の出題ミスは、2件発覚しましたが、判定（会議）前に判明処理したため、受験者には特段の影響は、生じませんでした。

また、学生募集広報については、WEB及び紙媒体を中心に行い、中でもWEBでは、新たに動画による甲南女子大学PR版を策定、京阪神各主要映画館にて中高校生及び保護者向けに映画CM「シネアド」（トイストリー3）を実施し、また、主要駅におけるイメージのブランド広報（主に阪急梅田駅及び三宮駅）を展開しました。

(11) ベスト・ティーチャー賞

学生に対する授業評価アンケートを参考として、大学教員(2名)に「ベスト・ティーチャー賞」を授与しました。

(12)地域貢献

対外協力センターは、ボランティア活動を実践し学ぶ「学習センター」として、また、地域社会と大学・学生を繋ぐ「地域センター」として、積極的な地域貢献活動を目指し実践しています。

そこで、対外協力センターでは、地域社会から国際社会まで幅広い地域貢献活動を展開しています。平成21年度に全学の地域貢献活動を集約した「神戸7つのケアの世界」をスタートさせ、現在このスキームのもとで46プログラムが動いています。

平成22年度に対外協力センター社会貢献室でボランティア登録を行った学生は499名（平成21年度は約100名）に達し、年間54件のボランティアプログラムに学生を派遣しました。学生は地域の保育・幼児教育施設、小・中学校、児童館、福祉施設や街づくりの現場をフィールドとしながら地域貢献活動に活発に取り組んでいます。また、地域の芸術活動支援を目的とした芦屋交響楽団の支援、地域の造形作家 荒木高子氏の作品委託管理も継続的に行っています。

3月11日に起きた東日本大震災で被災された方々のために、直ちに学生チームによる救援募金活動を阪急岡本駅前、JR摂津本山駅前、JR甲南山手駅前及びキャンパス内で行いました。お寄せいただいた募金は、可能な限り被災者の方々に直接届けるために、兵庫県が関係諸団体と開設した「東日本大震災兵庫義援金募集委員会」に送りました。

(13)施設関連

経年劣化による施設・設備の補修を始め、学習環境等の整備及び省エネ推進を実施しました。

学習環境等の整備は、8号館2階メディアライブラリー移転跡にメディア表現学科専用の教室を2室設置しました。また、看護リハビリテーション学部の大学院究科設置に係る施設として、1号館5階に院生研究室を設置しました。これに伴い、看護リハビリテーション学部のロッカー室を体育館Cジムへ移転

しました。

省エネ推進は、温水洗浄便座設置時、トイレの照明及び水道はセンサー感知式に取替えました。また、順次、教室の照明を省エネタイプに取替えています。

3. 中学校・高等学校

(1)教育活動

中学1年は、4月入学式前に友達作りと中学生としての自覚を促すことを目的としたスプリングセミナーを実施、2年は平和学習（総合の時間及び9月下旬に広島平和研修旅行を実施）、3年は多くの保育所の協力の下、1学期末考査後に保育体験学習を実施しました。

高校1年は、3月末に実施したスプリングセミナー(勉強合宿)で、自ら学ぶ姿勢を身につけ、11月に「探求（総合の時間）」と連動した「水俣研修旅行」を実施しました。2年は8月に行ったサマーセミナー(勉強合宿)で学習深度を深めました。また、11月に「探求(総合の時間)」と連動した研修中心の「沖縄修学旅行」を実施しました。

2月に、1年間の総合学習(探求・平和)・環境学習の成果を発表する「学習成果発表会」を、甲南大学、甲南中学校・同高校、甲南小学校の参加を得て、開催しました。

(2)生徒指導

品位ある人格形成のため、「あいさつ」の励行運動（和光会と協同実施）や頭髪・容儀等、教員全員で指導した結果、来校者の評価も上昇しており、学外で生徒にお世話になったとの感謝の声も届いています。登下校時の態度については、最寄駅(阪急芦屋川駅、JR 甲南山手駅)での指導を含め、引き続き指導を続けています。

(3)環境学習

6月・10月に広野で農作業体験を、9月に住吉川環境学習を甲南大学、甲南中学校・高等学校、甲南小学校と合同で実施しました。2月には、甲南小学校で行われた「収穫祭」にも参加しました(数十名の希望者参加)。

(4)行事

春の文化祭、秋の体育大会共、生徒による自主的な運営により行われており、大きな盛り上がりを見せる二大行事となっています。文化祭は家族・友人・卒業生など来校者数が3575名にのびりました。体育大会は、多くの来校者が訪れ盛況でした。

(5)土曜日活用

高校2年・3年の希望者を対象に、通年で国語・数学・社会・理科・英語の補習授業を実施しました。

(6)国際交流

長期の留学としてディートリッヒ・ボンヘッフアー・ギムナジウム（ドイ

ツ、派遣1名、受け入れ2名)、中期のものとしてセントマーガレッツ・アン
グ
リカン・ガールズハイスクール(オーストラリア、派遣・受け入れ、各2名)
との交換留学を実施しました。夏期休暇中にはカナダホームステイとオース
トラリアの研修旅行を実施しました。また、エジモントハイスクールとは春休
みに派遣を、2月には受け入れをし、相互に異文化交流をしました。

(7)課外活動

【写真部】

第34回兵庫県高等学校総合文化祭写真コンテスト(神戸支部予選)
神戸支部賞

【放送部】

- ① 第57回NHK杯 高校放送コンテスト 兵庫県第2地区予選
・アナウンス部門 入選
・朗読部門 入選
・創作ラジオドラマ部門 佳作2本
- ② 第27回NHK杯 全国中学校放送コンテスト兵庫県大会
アナウンス部門 最優秀賞(第1位)佳作
朗読部門 入選(7位)
ラジオ番組部門 優良賞(3位)
- ③ 第27回NHK杯全国中学校放送コンテスト全国大会
アナウンス部門 入選
- ④ 第34回兵庫県高等学校 総合文化祭 放送文化部門
アナウンス小部門 入選(決勝進出)
朗読小部門 入選(決勝進出) 佳作
ラジオ番組(ドラマ)小部門 銅賞 入選(決勝進出)
決勝 11月14日(日)流通科学大学
アナウンス小部門 奨励賞
朗読小部門 奨励賞
ラジオ番組(ドラマ)小部門 銅賞(5位)
テレビ番組小部門 奨励賞
- ⑤ 放送部 第6回 兵庫県高校放送フェスティバル
アナウンス部門 入選 奨励賞

【コーラス部】

- ① 第77回NHK全国学校音楽コンクール兵庫県大会において、
銀賞 中学コーラス部/50名
銅賞 高校コーラス部/30名
- ② 2010年度兵庫県合唱コンクールにおいて、
金賞 中学コーラス部(50名)、金賞 高校コーラス部(30名)

【美術部】

第 50 回兵庫県私学連合美術展 奨励賞

【茶道部】

- ① 平成 22 年 兵庫県高等学校第 3 回茶道 研鑽会（これは兵庫県高等学校文化連盟の県大会に相当する大会）優秀賞
- ② 近畿高等学校茶道部合同大会（近畿大会） 優秀賞

【アーチェリー部】

- ①第 53 回 兵庫県高体連 神戸支部 春季アーチェリー競技大会
○団体 優勝 ○個人 優勝 第 5 位
- ②第 53 回 兵庫県高体連 春季大会 70 メートルラウンド
○個人 優勝 第 6 位
- ③第 20 回 近畿私立高等学校アーチェリー大会
○団体 優勝 ○個人 優勝 第 3 位 第 4 位
- ④第 64 回 県民体育大会 アーチェリー競技大会
○団体 優勝 ○個人 優勝 準優勝 第 4 位
- ⑤第 54 回 兵庫県高等学校総合体育大会アーチェリー競技大会
○団体 優勝 ○個人 優勝 準優勝 第 3 位 第 5 位 第 6 位
- ⑥ 平成 22 年度 国民体育大会 選手最終選考会
少年女子兵庫県代表 三宅佑奈（ゆうな）、和田奈津希（なつき）
- ⑦ 平成 22 年度 近畿高校アーチェリー選手権大会
女子団体第 3 位
- ⑧第 65 回国民体育大会近畿ブロック大会
第 2 位 兵庫県少年女子チーム 三宅佑奈（ゆうな） 和田奈津希（なつき）
- ⑨ 第 57 回兵庫県高体連 アーチェリー新人戦
団体 2 位 個人 3 位 個人 6 位
- ⑩ 第 34 回のじぎく杯 室内アーチェリー競技大会
中学の部 優勝 準優勝 第 3 位 第 5 位
高校の部 第 4 位

【弓道部】 6 月 4 日（金）～6 日（日） 兵庫県立弓道場

- ①全国高校総体兵庫県予選
○団体 第 2 位
○個人 優勝
- ②全国総合体育大会（沖縄インターハイ） 弓道競技
個人の部 優勝
- ③兵庫県知事よりマロニエ賞受賞 高 3 -A 福田向芳
- ④第 6 回 聖徳太子杯弓道大会
女子団体の部 優勝
女子個人の部 第 2 位

【硬式テニス部】

- ①神戸・丹有地区高校テニスリーグ戦 夏季団体戦
女子1部リーグ 優勝
- ②平成22年度神戸・丹有地区 秋季団体戦
女子1部リーグ優勝

【陸上部】

- ①高校陸上ユース大会神戸地区大会
400m走 5位
砲丸投げ 5位
- ②神戸市中学校陸上競技新人大会
走り高跳び 第7位

【馬術】

- ① 大阪グランプリ第9回スプリング大会
ジュニア障害飛越 第6位
- ② JEF馬場馬術競技 第2課目 1日目 準優勝 2日目 第3位
- ③ 第36回杉谷馬事公苑馬場馬術大会
JEF馬場馬術競技 第3課目 1日目 第5位 2日目 第3位
- ④ 国民体育大会近畿ブロック大会 馬術競技
馬術競技の部 少年標準障害 飛越(ひえつ)競技 第5位
- ⑤ 第65回 国民体育大会 馬術競技 少年トップスコア競技
第6位
- ⑥ 大阪グランプリ第36回ファイナル大会
中障害飛越(D)チャンピオンシップ 第7位
- ⑦ 第46回 新春馬術大会
中障害飛越競技D 第6位
- ⑧ 第36回杉谷インドアホースショー
中障害飛越6位、小障害飛越競技(レディース)2位
- ⑨ 第48回大阪府民馬術大会
中障害飛越競技D(オープン) 6位
JEF馬場馬術競技第3課目 2位
小障害飛越競技(婦人) 3位

【書道】

- ①第60回 神戸市小・中・特別支援学校 書初め展覧会
金賞1 銀賞2 銅賞3 入選10
- ② 第19回 国際高校生 選抜書展
入選
- ③ 第57回日本学書展
準特選
- ④ 第43回兵庫県私学総連合会書道展
特選 特選

【写生大会】

第 60 回 春のこども写生大会
金賞 高 1 -B

【音楽】

- ① 第 20 回兵庫県学生ピアノコンクール本選
E 部門最優秀賞、あわせて兵庫県知事賞、NHK神戸放送局長賞を受賞
- ② 第 34 回ピティナ・ピアノコンペティション中国・四国地区本選で
優秀賞を受賞
- ③ 兵庫県高等学校 独唱・独奏コンクール ピアノ部門で銀賞 受賞

【社会科】

中学生の『税に関する作文』国税庁主催
神戸市東灘区租税教育推進協議会長賞 芦屋東灘納税貯蓄組合連合会長賞

【和光会】

世界子ども基金クローバー会の活動に対し
ソロプチミスト日本財団より、社会ボランティア賞をいただきました。

【読書・エッセー・コンテスト】

第 3 回 新潮文庫感動大賞
一次選考通過 二次選考通過

(8)安全教育

4 月と 10 月に「自衛消防総合訓練」を、全校生徒・全教職員を対象に実施しました。7 月は教職員対象の「AED心肺蘇生法講習会」「熱中症対策研修会」を、12 月には、警察官の講演と薬物被害をテーマにしたビデオ鑑賞による「防犯教室」を、全校生徒を対象に開催しました。下校時刻(15 時 45 分から 17 時 45 分)に、安全巡視員の巡回による不審者対策を講じました。特に心配な甲南山手駅北側の阪急の地下道には、15 時 30 分から 17 時 30 分の 2 時間、教員による「立ち番」を設けました。

(9)生徒募集

平成 20 年度よりスタートした S アドコースとスタンダードコースの新体制及び新校舎建築計画(平成 23 年度中に竣工・24 年度より使用)の広報を中心に、6 月に 1 回・10 月に 1 回 11 月に 1 回の計 3 回の学校説明会を実施しました。参加総数は 1,527 名に及び、校外での説明会も盛況でした。平成 23 年度中学入試では、S アドコース 2 クラス、スタンダードコース 3 クラスの募集を行い、両コースとも高倍率となりました。多くの学校で定員割れを起こしている中で、本校は順調に 183 名の入学者を確保しました。

Ⅲ. 財務の概要

(1)平成 22 年度決算の状況

【資金収支計算書】

【収入の部】

(単位:千円)

科目	H22 年度決算	H21 年度決算	増減	増減率
学生生徒等納付金収入	5,663,438	5,217,918	445,520	108.5%
手数料収入	122,941	108,244	14,697	113.6%
寄付金収入	42,144	44,656	△2,512	94.4%
補助金収入	671,756	650,695	21,061	103.2%
資産運用収入	224,662	278,106	△53,444	80.8%
資産売却収入	4,179,747	1,002,093	3,177,654	417.1%
事業収入	84,345	84,907	△562	99.3%
雑収入	167,221	115,583	51,638	144.7%
前受金収入	1,065,355	1,062,595	2,760	100.3%
その他の収入	547,247	396,550	150,697	138.0%
資金収入調整勘定	△1,226,372	△1,235,880	9,508	99.2%
計	11,542,484	7,725,467	3,817,017	149.4%
前年度繰越支払資金	3,730,315	3,144,364	585,951	118.6%
収入合計	15,272,799	10,869,831	4,402,968	140.5%

『収入の状況』

資金収入計(前年度繰越支払資金を除く)は、前年比 38 億 17 百万円増の 115 億 42 百万円となりました。主な増加は、学生生徒等納付金収入 4 億 45 百万円増、資産売却収入 31 億 77 百万円増によるものです。資産売却収入の内容は、有価証券の満期償還収入(国債・社債・国庫短期証券)39 億円、不動産売却収入(旧学生寮の土地)2 億 80 百万円です。

【支出の部】

(単位:千円)

科目	H22 年度決算	H21 年度決算	増減	増減率
人件費支出	3,541,871	3,322,814	219,057	106.6%
教育研究経費支出	1,180,079	1,147,866	32,213	102.8%
管理経費支出	525,684	453,393	72,291	115.9%
施設関係支出	351,425	149,621	201,804	234.9%
設備関係支出	136,660	324,824	△188,164	42.1%
資産運用支出	5,120,975	1,612,654	3,508,321	317.5%
その他の支出	397,927	449,769	△51,842	88.5%
資金支出調整勘定	△211,817	△321,425	109,608	65.9%
計	11,042,804	7,139,516	3,903,288	154.7%
次年度繰越支払資金	4,229,995	3,730,315	499,680	113.4%
支出合計	15,272,799	10,869,831	4,402,968	140.5%

『支出の状況』

資金支出計（次年度繰越支払資金を除く）は、前年比 39 億 3 百万円増の 110 億 42 百万円となりました。主な増加は、人件費支出 2 億 19 百万円増、施設関係支出 2 億 1 百万円増、資産運用支出 35 億 8 百万円増によるものです。資産運用支出の内容は有価証券の長期運用(国債・社債)25 億円、1 年以内の短期運用(国庫短期証券)26 億円です。一方、主な減少は設備関係支出 1 億 88 百万円減によるものです。

【資金収支差額の部】

(単位:千円)

科目	H22 年度決算	H21 年度決算	増減	増減率
資金収支差額	499,680	585,951	△86,271	85.3%

*資金収支差額=資金収入計-資金支出計

『資金収支差額の状況』

資金収支差額は前年比 86 百万円減の 4 億 99 百万円となりました。
この結果、次年度に繰越される支払資金は 42 億 29 百万円となりました。

平成 22 年度の主な施設設備整備事業は次のとおりです。

大学

1. 各棟 洋式トイレ改修	33,075	千円
2. 1 号館 研究室設置	14,164	千円
3. 体育館 C ジムロッカー室設置	16,954	千円
4. 8 号館 教室改造	11,602	千円
5. 里山パーク整備	11,300	千円
6. テニスコート人工芝張替	7,587	千円
7. 図書館 屋上防水・外壁補修	33,474	千円
8. 7 号館 外壁補修	52,290	千円
9. 学内 LAN 設備	27,819	千円

中高校

1. 新校舎建築費	221,323	千円
-----------	---------	----

【消費収支計算書】

【消費収入の部】

(単位:千円)

科目	H22 年度決算	H21 年度決算	増減	増減率
学生生徒等納付金	5,663,438	5,217,918	445,520	108.5%
手数料	122,941	108,244	14,697	113.6%
寄付金	45,770	49,655	△3,885	92.2%
補助金	671,756	650,695	21,061	103.2%
資産運用収入	224,662	278,106	△53,444	80.8%
資産売却差額	150,327	746	149,581	20151.1%
事業収入	84,345	84,907	△562	99.3%
雑収入	167,221	115,583	51,638	144.7%
帰属収入合計	7,130,460	6,505,854	624,606	109.6%
基本金組入額合計	0	△326,597	326,597	—%
消費収入の部合計	7,130,460	6,179,257	951,203	115.4%

『消費収入の状況』

(1) 学生生徒等納付金

学部生の増加(333名)により、前年比4億45百万円増の56億63百万円となりました。期中の学生生徒数は、5051名(平成22年5月1日現在)です。

(2) 手数料

前年比14百万円増の1億22百万円となりました。手数料の主なものは、入学検定料1億15百万円です。

(3) 寄付金

前年比4百万円減の45百万円となりました。主な寄付金は、中高校への教育環境整備資金として17百万円、学園創立90周年記念事業募金(施設設備の整備事業)として教育振興基金へ24百万円の寄付を受け入れました。

なお、創立90周年記念事業募金として受入、受配者指定寄付金の指定を受けるため、日本私立学校振興・共済事業団に預け入れしている金額(平成21～22年度の合計)は71百万円となりました。

(4) 補助金

前年比21百万円増の6億71百万円となりました。主な補助金は私立大学等経常費補助金3億62百万円、大学改革推進等補助金3百万円、兵庫県私立学校経常費補助金2億92百万円です。

(5) 資産運用収入

前年比53百万円減の2億24百万円となりました。積立資産、運転資金等の受取利息2億18百万円及び施設設備利用料6百万円です。

(6) 資産売却差額

旧学生寮の土地売却で1億50百万円となりました。

(7) 事業収入

主なものは、大学の学生寮寮費80百万円です。

(8) 雑収入

主なものは、退職金財団交付金収入1億51百万円及びその他の雑収入15百万円です。

この結果、帰属収入合計は前年比6億24百万円増(9.6%)の71億30百万円となりました。

【消費支出の部】

(単位:千円)

科目	H22 年度決算	H21 年度決算	増減	増減率
人件費	3,513,052	3,348,129	164,923	104.9%
教育研究経費	1,895,576	1,844,017	51,559	102.8%
管理経費	598,110	524,054	74,056	114.1%
資産処分差額	282,131	395,833	△113,702	71.3%
徴収不能引当金繰入額等	14,086	12,578	1,508	112.0%
消費支出合計	6,302,955	6,124,611	178,344	102.9%

減価償却費の内訳

内訳	H22 年度決算	H21 年度決算	増減	増減率
教育研究経費	715,497	696,150	19,347	102.8%
管理経費	72,426	70,661	1,765	102.5%

『消費支出の状況』

(9)人件費

教職員の増加により前年比1億65百万円(4.9%)増の35億13百万円となりました。期中の本務教職員数は301名、兼務教職員数は298名で、帰属収入に占める人件費割合は49.3%となり、前年同比率51.5%から2.2%減少しました。

(10)教育研究経費

前年比51百万円(2.8%)増の18億95百万円となりました。減価償却費を除く経費は11億80百万円(前年比2.8%増)で、前年度より32百万円増加しました。主な増加は大学校舎の修繕費27百万円増、奨学金17百万円増です。減価償却費は7億15百万円(前年比2.8%増)となり、前年度より19百万円増加しました。帰属収入に占める教育研究経費の割合は26.6%(前年同比率28.3%)です。

(11)管理経費

前年比74百万円(14.1%)増の5億98百万円となりました。主な増加は創立90周年記念事業費45百万円、学生生徒募集費24百万円増(前年比14.3%)です。帰属収入に占める管理経費の割合は8.4%(前年同比率8.1%)です。

(12)資産処分差額

旧学生寮の施設処分により建物処分差額1億83百万円、有価証券の評価差額43百万円、その他の施設設備の処分差額55百万円を合わせ2億82百万円となりました。

(13)徴収不能引当金繰入額、徴収不能額

貸与奨学金及び学費の徴収不能引当金で14百万円となりました。

この結果、消費支出合計は前年比1億78百万円(2.9%)増の63億2百万円となりました。

【収支差額の部】

(単位:千円)

科目	H22年度決算	H21年度決算	増減	増減率
当年度消費収入超過額	827,505	54,646	772,859	1514.3%
前年度繰越消費収入超過額	2,301,277	2,246,631	54,646	102.4%
基本金取崩額	481,423	0	481,423	—%
翌年度繰越消費収入超過額	3,610,205	2,301,277	1,308,928	156.9%

『基本金組入・消費収支差額の状況』

旧学生寮の施設を売却したことにより、第1号基本金は、当期の固定資産取得額が当期の除却額を下回ったため、2億60百万円の取崩を計上しました。また、第2号基本金については、中高校新校舎建築資金2億21百万円(建設仮勘定として処理)を第1号基本金へ振替たため、同額を基本金から取崩しました。結果、基本金の取崩総額は4億81百万円となりました。

『帰属収支差額の状況』

(単位:千円)

帰属収支差額	H22年度決算	H21年度決算	増減	増減率
帰属収入—消費支出	827,505	381,243	446,262	217.1%

当期は前年度より4億46百万円(217.1%)増加し8億27百万円となりました。

【貸借対照表】

【資産の部】

(単位:千円)

科目	H22 年度末	H21 年度末	増減	増減率
固定資産	39,196,638	38,912,858	283,780	100.7%
有形固定資産	20,368,828	21,020,995	△652,167	96.9%
土地・建物・構築物	16,746,721	17,247,046	△500,325	97.1%
機器備品・図書・車輛	3,622,107	3,773,949	△151,842	96.0%
その他の固定資産	18,827,810	17,891,863	935,947	105.2%
特定資産・有価証券	18,641,605	17,684,995	956,610	105.4%
その他	186,205	206,868	△20,663	90.0%
流動資産	4,420,306	3,913,575	506,731	112.9%
現金預金	4,229,995	3,730,315	499,680	113.4%
その他	190,311	183,260	7,051	103.8%
資産合計	43,616,944	42,826,433	790,511	101.8%

『資産の状況』

資産総額は前年度より 7 億 90 百万円 (1.8%) 増加し、436 億 16 百万円となりました。

固定資産は、2 億 83 百万円(0.7%)増加し 391 億 96 百万円となりました。これは主に、有形固定資産が旧学生寮施設の売却、施設設備の減価償却費の増加により 6 億 52 百万円減少したこと及びその他の固定資産の特定資産(積立金)が 9 億 56 百万円増加したことによるものです。

流動資産は、5 億 6 百万円(12.9%)増加し 44 億 20 百万円となりました。これは主に現金預金が 4 億 99 百万円(11.3%)増加したことによるものです。

【負債の部】

(単位:千円)

科目	H22 年度末	H21 年度末	増減	増減率
固定負債	1,510,521	1,537,395	△26,874	98.3%
退職給与引当金	1,451,211	1,480,030	△28,819	98.1%
その他	59,310	57,365	1,945	103.4%
流動負債	1,429,253	1,439,373	△10,120	99.3%
前受金	1,065,355	1,062,595	2,760	100.3%
その他	363,898	376,778	△12,880	96.6%
負債合計	2,939,774	2,976,768	△36,994	98.8%

『負債の状況』

負債総額は前年度より 36 百万円(1.2%)減少し、29 億 39 百万円となりました。これは主に、退職給与引当金が 28 百万円減少したことによるものです。

【基本金の部】

(単位:千円)

科目	H22 年度末	H21 年度末	増減	増減率
第 1 号 基本 金	32,978,288	33,238,388	△260,100	99.2%
第 2 号 基本 金	2,378,677	2,600,000	△221,323	91.5%
第 3 号 基本 金	1,210,000	1,210,000	0	100.0%
第 4 号 基本 金	500,000	500,000	0	100.0%
基本金合計	37,066,965	37,548,388	△481,423	98.7%

【消費収支差額の部】

(単位:千円)

科目	H22 年度末	H21 年度末	増減	増減率
翌年度繰越消費収支 差額	3,610,205	2,301,277	1,308,928	156.9%

【負債、基本金、消費収支差額の部合計】

(単位:千円)

科 目	H22 年度末	H21 年度末	増減	増減率
負債、基本金、消費収支 差額計	43,616,944	42,826,433	790,511	101.8%

(正味財産)

(単位:千円)

基本金+消費収支差額	H22 年度末	H21 年度末	増減	増減率
	40,677,170	39,849,665	827,505	102.1%

『正味財産の状況』

当期において、基本金 4 億 81 百万円の取崩を行ったことから、基本金総額は 370 億 66 百万円となりました。結果、総資産から総負債を差し引いた正味財産は、前年度より 8 億 27 百万円(2.1%)増加し、406 億 77 百万円となりました。

(2)財務状況の推移

消費収支計算書(5ヵ年)

(単位：千円)

科目	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
学生生徒等納付金	4,104,118	4,351,933	4,691,593	5,217,918	5,663,438
手数料	90,702	98,630	95,660	108,244	122,941
寄付金	44,958	46,972	37,984	49,655	45,770
補助金	515,919	545,537	566,748	650,695	671,756
資産運用収入	476,335	390,391	392,152	278,106	224,662
資産売却差額	1,086	1,018	1,278	746	150,327
事業収入	32,920	36,441	34,528	84,907	84,345
雑収入	188,238	216,598	149,211	115,583	167,221
帰属収入合計	5,454,276	5,687,520	5,969,154	6,505,854	7,130,460
基本金組入額合計	△1,823,378	△200,000	△328,700	△326,597	0
消費収入の部合計	3,630,898	5,487,520	5,640,454	6,179,257	7,130,460

科目	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
人件費	2,991,408	3,367,466	3,298,264	3,348,129	3,513,052
教育研究経費	1,578,878	1,781,395	1,751,537	1,844,017	1,895,576
管理経費	502,416	498,053	757,205	524,054	598,110
資産処分差額	108,454	216,950	18,787	395,833	282,131
徴収不能引当金繰入額	5,951	6,800	6,669	12,578	14,086
消費支出の部合計	5,187,107	5,870,664	5,832,462	6,124,611	6,302,955
当年度消費収支差額	△1,556,209	△383,144	△192,008	54,646	827,505
前年度繰越消費収支差額	3,877,711	2,321,502	2,438,639	2,246,631	2,301,277
基本金取崩額	0	500,281	0	0	481,423
翌年度繰越消費収支差額	2,321,502	2,438,639	2,246,631	2,301,277	3,610,205

主な財務比率(5ヵ年)

科目		H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	算式
消費収支計算書	学生生徒等納付金比率	75.2%	76.5%	78.6%	80.2%	79.4%	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$
	人件費比率	54.8%	59.2%	55.3%	51.5%	49.3%	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$
	教育研究経費比率	28.9%	31.3%	29.3%	28.3%	26.6%	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$
	帰属収支差額比率	4.9%	-3.2%	2.3%	5.9%	11.6%	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$

貸借対照表の推移(5ヵ年)

(単位：千円)

科目	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
固定資産	39,503,240	38,898,221	39,072,395	38,912,858	39,196,638
流動資産	2,848,419	3,214,197	3,326,180	3,913,575	4,420,306
資産の部合計	42,351,659	42,112,418	42,398,575	42,826,433	43,616,944
固定負債	1,577,859	1,513,157	1,454,715	1,537,395	1,510,521
流動負債	1,258,925	1,267,531	1,475,438	1,439,373	1,429,253
負債の部合計	2,836,784	2,780,688	2,930,153	2,976,768	2,939,774
基本金の部合計	37,193,373	36,893,091	37,221,791	37,548,388	37,066,965
翌年度繰越消費収支差額	2,321,502	2,438,639	2,246,631	2,301,277	3,610,205
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	42,351,659	42,112,418	42,398,575	42,826,433	43,616,944

主な財務比率(5ヵ年)

科目		H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	算式
貸借対照表	固定資産比率	93.3%	92.4%	92.2%	90.9%	89.9%	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$
	固定負債比率	3.7%	3.6%	3.4%	3.6%	3.5%	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総資金}}$
	流動比率	226.3%	253.6%	225.4%	271.9%	309.3%	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$
	自己資金比率	93.3%	93.4%	93.1%	93.0%	93.3%	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}}$

(注) 自己資金=基本金+消費収支差額
 総資金=負債+基本金+消費収支差額

(平成 23 年 3 月 31 日現在)

役員	
理事長	松下正幸
理事長代理	上島康男
理事長代理	松田基
理事	坪内良博
理事	清水 洵
理事	北市哲朗
理事	神野富一
理事	稲垣由子
理事	津村智恵子
理事	上田昇司
理事	塩原 勉
理事	吉松典子
理事	百崎祥子
理事	熊谷信昭
理事	銭高一善
理事	伊藤 勲
理事	吉沢英成
理事	中内 仁
監事	小笹定典
監事	森 房 子

評議員	
森田浩一	松下正幸
西尾 新	上島康男
森 圭 子	松田 基
清水俊成	銭高一善
森嶋幸子	北市哲朗
金延重光	熊谷信昭
中林千景	俵 正 市
坪内良博	塩原 勉
清水 洵	伊藤 勲
神野富一	吉沢英成
稲垣由子	中内 仁
津村智恵子	平尾誠三
上田昇司	中村啓子
吉松典子	明石 巧
南 保 子	西岡良和
谷田奈々子	田中章義
百崎祥子	鈴木健夫
山本恵子	山林正育
岩本由美子	和田濱佳子

理事	18名
監事	2名
評議員	38名

